

博多湾環境保全計画(第三次)素案の概要

1 計画策定の趣旨

第二次博多湾環境保全計画(計画期間:2016(平成28)年度～2024(令和6)年度)では、市民、事業者、行政などの連携・共働による水質改善や干潟保全活動等により、生きものの生息・生育環境及び親水空間の確保が図られたが、夏季の貧酸素水塊の発生や、海藻養殖に必要な冬季の栄養塩(リン)不足などが課題となっている。

国の動向にも柔軟に対応しつつ、多様な主体や世代がそれぞれの強みを活かしながら、博多湾の環境保全の取組みを推進することで、博多湾の恵みを将来にわたって享受し、かつ、生きものが健全に生息・生育する環境を未来につなぐことをめざし、第三次博多湾環境保全計画を策定するもの。

2 これまでの経緯と今後の予定

2024(令和6)年2月に計画策定に着手したことを報告し、学識経験者、漁業者代表、市民団体、事業者、関係行政機関により構成される「博多湾環境保全計画推進委員会」で検討を進めてきたところであり、今般、計画の素案を策定した。

年	2023 (令和5)年度			2024 (令和6)年度												2025 (令和7)年度											
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
市議会	2月 委員会 報告 (着手)															6月 委員会 報告 (原案)			9月 本会議 報告 (策定)								
環境審議会				5月 総会 (着手)												5月 総会 (素案)											
博多湾 環境保全計画 推進委員会							8月 (方向性)			11月 (方向性)			2月 (骨子)			4月 (素案)			8月 (とりまとめ)								

3 計画の位置づけ

- 福岡市環境基本条例に基づく福岡市環境基本計画の部門別計画
- 博多湾の環境保全施策に対する本市の基本的方向を示す計画であり、博多港港湾計画、博多湾流域別下水道整備総合計画、福岡市水産業総合計画と連携を図る

4 計画の対象期間

上位計画の福岡市環境基本計画(第四次)との整合を図り、2025(令和7)年度から2034(令和16)年度までの10年間

5 博多湾の新・将来像と視点

“生きものの育みと恵みを未来につなぐ豊かな博多湾”

- ・視点1 適切な水質保全
- ・視点2 生きものの生活史を通じた環境保全
- ・視点3 事業者など多様な主体との連携
- ・視点4 脱炭素・循環経済・生物多様性の統合的推進
- ・視点5 市民のウェルビーイングの向上

6 基本的方向・計画目標像・主な施策・指標・目標

基本的方向 (博多湾の多面的機能)		R16計画目標像	主な施策(●は新規施策)	指標・目標
つなぐ	多様な生きものや 市民生活を 支える博多湾	豊かな海の実現に向けた 適切な水質保全が行われ ている	・下水の高度処理 ・合流式下水道の改善 ・底質改善 ●博多湾の栄養塩類のあり方検討	・水質環境基準達成状況 ⇒COD、T-N、T-P現状維持 ※二次計画期間内の最低達成率以上 COD 2/8地点 T-N 2/3海域 T-P 全3海域 ・博多湾海域における魚種数 ⇒現状維持(令和6年度 69種)
		港湾機能、漁業活動と 調和している	・浚渫土砂による窪地埋め戻し ●浚渫土砂による覆砂・浅場造成 の検討・実施	
はぐくむ	多様な生きものを 育み、恵みを もたらす博多湾	多様な生きものが生まれ 育つ場が保全・再生・回復 している	・藻場の保全・再生 ・干潟保全活動の推進 ・浚渫土砂による窪地埋め戻し ・浚渫土砂による覆砂・浅場造成 の検討・実施 ・底質改善	・博多湾の藻場面積 ⇒令和5年度面積(419.4ha) 現状維持 ・海藻類の種数 ・博多湾海域における魚種数 ⇒現状維持
		多種多様な水産資源が 持続的に漁獲されている	・アサリ等資源再生活動 ・種苗放流 ・海藻養殖漁場の栄養塩対策の 検討	・室見川河口干潟のアサリ推定資源量 ・一人当たり漁業生産量 ・ノリ養殖生産量 ※市水産業総合計画に定める目標に準ずる
ふれあう	市民が身近に ふれあう博多湾	市民の親水空間が良好な 状態で保全されている	・ラブアース・クリーンアップ ・海浜地の清掃 ・アオサ回収 ・砂浜海浜の維持管理	・ラブアース・クリーンアップ参加者数 ⇒令和5年度(41,800人)より増加 ・百道浜来客者数 ⇒令和5年度(300万人)より増加 ・水浴場水質 ⇒全地点A以上
つなぐ	豊かな恵み・ ふれあいを未来に つなぐ博多湾	・森里川海のつながりを 意識した取組みが 進んでいる ・多様な主体がそれぞ れの強みを活かしながら 博多湾の環境保全創造 活動を行っている ・豊かな博多湾を未来に つなげる取組みが 進んでいる	・環境保全創造活動の推進 ・環境保全に関する情報発信 ・ラブアース・クリーンアップ ・小学生を対象とした環境学習	・博多湾環境保全創造活動の開催数 ⇒令和5年度(31回)より増加 ・まもる一むでの博多湾環境保全に 関するイベント実施回数・参加者数 ⇒令和5年度(7回及び計148名) より増加

7 計画の進行管理

- 「博多湾環境保全計画推進委員会」による評価を踏まえ、PDCA サイクルにより計画を推進
- 水質、底質、生物等について、これらの変動を規定する気象や海況などとあわせて計画的なモニタリングを実施